

# 特別支援教育委員会を核とした校内支援体制の構築

愛知県立大府東高等学校

## 1 はじめに

大府東高等学校は、1983年に開校した普通科高校で、愛知県大府市に位置する。国際交流活動や部活動が盛んであるとともに、ICT活用や探究活動に力を入れ、令和6年度に「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」に採択され、令和7年度も継続校として認可されている。校訓「努力－労を惜しむな－」の下に、明確な目標をもち、自ら考えて何事にも積極的に取り組むことができる人、努力を継続して失敗を恐れず何事にも挑戦する人、ボランティア活動や地域社会の発展に自ら取り組むことができる人の育成をスクールポリシーに掲げ、個別最適な学びとICTを活用した主体的・対話的で深い学びの充実、国際教育の推進に重点的に取り組んでいる。

本校は、特別な支援を必要とする生徒のために個別支援を目的として、「特別支援教育委員会」を設置している。この「特別支援教育委員会」を中心とした指導体制、及び「個別の指導計画」の作成と活用が本校の強みである。今回の研究を通して、多様な生徒のニーズに応じた更なる支援を目指し、校内での連携体制強化を計画的に推進した。

## 2 実践研究内容

### (1) 研究の概要

本研究の目的は、卒業後の生活へのスムーズな移行を見据え、進路指導を含めた校内支援体制を構築することである。まず各学期に個別の指導計画（資料1）を作成し、「特別支援教育委員会」で情報共有を行い、支援の手だてと目標を検討した。

個別の指導計画は、発達障害・学習障害・身体障害などのある生徒に対して、適切な支援を提供することを目的としている。作成の流れは、最初に特別支援教育コーディネーターが合格者登校日に面談を希望する保護者と面談を実施し、生徒の希望や要望を聞き取る。その後、面談で得た情報を基に「ライフデザインシート」（次ページ資料2）を作成し、ホームルーム担任が中心となって個別の指導計画を作成する。また、中学校から支援が必要な生徒の資料が引き継がれた場合、保護者の意向に基づいて個別の指導計画を作成するか、個別の教育支援計画を作成するかを必要に応

【資料1 個別の指導計画】

令和7年度 個別の指導計画						愛知県立大府東高等学校
年 組 番号 氏名					担任氏名	
保護者 申出事項	教科・科目	生徒の状況	支援の目標	支援の手立て	評価	
	1学期					
	2学期					
	3学期					
学習上 の支援	生徒の状況		支援の目標	支援の手立て	評価	
	1学期					
	2学期					
	3学期					
生活上 の支援						
その他 の事項						
備考						

【資料2 ライフデザインシート】

じて検討する。これらの計画を基に「特別支援教育委員会」において当該生徒の情報を共有し、学校全体の支援体制を組織的に構築していくとともに、自己理解を深める取組、主体的な進路選択につなげる取組、進路先への移行に向けた取組の三つの取組を実践することにした。

(2) 校内支援体制づくり

本校では、特別な支援を必要とする生徒への教育的支援をするため、「特別支援教育委員会」を校内支援体制の中核として設置している。この委員会は、年5回（4月・7月・12月・2月・3月）開催し、管理職、担任、特別支援教育コーディネーター、教務主任、生徒指導主事、学年主任、教育相談担当、進路指導主事、スクールカウンセラー、などで構成されている（資料3）。

「特別支援教育委員会」の主な役割は、以下のとおりである。

ア 生徒の実態把握と情報共有

当該生徒の学習面・生活面の状況や課題について、関係教職員間で情報を共有し、支援の必要性や具体的な課題を明確にする。

イ 個別の指導計画の作成・検討

生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、個別の指導計画を作成・更新し、合理的配慮を含めた具体的な支援目標や手だてを協議する。

ウ 支援体制の構築と連携

担任が一人で抱え込まず、校内で連携して支援に当たる体制を整えている。必要に応じて保護者や外部機関とも連携し、支援の幅を広げている。

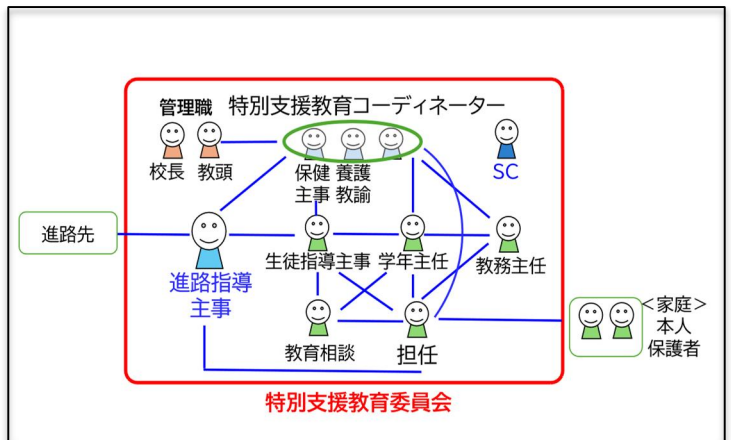
エ 支援の進捗管理と評価

学期ごとに委員会を開催し、支援の進捗や成果を確認・評価し、必要に応じて支援内容の見直しや新たな手だての検討を行う。

このように、「特別支援教育委員会」は、校内支援体制の中核として、生徒一人一人の多様なニーズに応じた継続的かつ組織的な支援を実現するための要となっている。今回の研究では、この校内支援体制づくりを改めて

ライフデザイン 支援シート	年 組 氏名		作成日： 年 月 日
	会議出席者		
支援 会議 の き つ か け ・ 問 題 点	次席	選別	早退
	別室	いつからどんな様子か？ ( )年生( )月頃から ( )友人関係(しめ有・無)	
□ 不登校		□ 問題行動	□ 学業・進路 □ その他( )
困っている人		困っていること(いつ、どこで、どのように…など)	
問題点のまとめ			
作 職 立 脚 の ホ イ ン ド ー 本 人 理 解 を 自 己 理 解 の 開 発 ・ 保 護 者 の 理 解 ・ 保 護 者 へ の 支 援 ・ 外 部 連 携 ・ 二 次 障 害 へ の 対 応	指示的な関わり・介入など		生かしたいこと
	学習支援		やれそうなこと
	社会性の育成		
	進路・選性・キャリア		
	心理的安定を図る		支援の方針まとめ
	長所を伸ばす		いつ、誰が、何をするか
	保護者との協働		○今すぐやるべきこと
	保護者への支援		○今後やるべきこと
	役割分担		
	役割分担		学校
		本人	その他

【資料3 特別支援教育委員会構成員】



「特別支援教育委員会」の様子

見直し、更に強化することで、特別な支援を必要とする生徒の進路実現をサポートする体制を整えていった。

### (3) 三つの取組について

#### ア 自己理解を深める取組

個別の指導計画の作成と個人面談の充実を通して、学習面・生活面の両面からきめ細やかな支援を意識して行った。

個別の指導計画には、保護者からの申出事項や中学校・医療機関等からの情報も参考にしながら、各学期ごとに「生徒の状況」「支援の目標」「支援の手だて」「評価」を記入し、合理的配慮事項も明記している。学習面では、教科ごとに生徒の課題や目標を設定し、例えば、短い文章を自分で書くことが難しい生徒に対しては、ワークシートで5W1Hを整理するなどの具体的な手だてを講じた。また、「実験への参加が難しい」生徒に対しては、手順を写真などの視覚情報で提示するなど、合理的配慮を取り入れた支援を行うようにした。そして学期末には、支援の成果を評価し、次学期以降の計画に生かすことにした。

生活面では、例えば、精神的な不安定さなどの課題に対し、クールダウン用の別室を用意（基礎的環境整備）したり、言葉で適切に感情を表現できるように必要な声かけを行うなどの具体的な手だてを講じたりした。生活面も同様に学期末には、支援の成果を評価し、次学期以降の計画に生かすようにした。

このように、個別の指導計画を作成し、生徒の実態把握から目標設定、具体的な支援、評価・振り返りまでを学校全体で組織的にを行い、更に個人面談の充実を図ることで保護者や外部機関との連携も重視しながら、継続的な支援体制を構築し、自己理解を進めた。

#### イ 主体的な進路選択につなげる取組

##### (ア) 主体的な進路選択を促す取組

各学年で、進路希望調査、学部・学科説明会（1年生対象）、出前授業（2年生対象）、オープンキャンパス、補習、模擬試験、各種進路講演会などの行事を計画的に実施している。これらの活動を通じて、生徒が自分の進路を主体的に考え、選択できるようサポートしている。

##### (イ) 自己理解と進路選択の接続

個別の指導計画の作成や個人面談の充実などを通じて、生徒が自分自身の課題や強みを的確に認識し、それらを進路選択の過程で活用することによって、特別な支援が必要な生徒も自分の適性に基づいた進路選択を主体的に行える体制を更に整えた。

##### (ウ) 支援スケジュール

学年に応じて支援スケジュールを整備し、進路行事ごとの使用ツールと高めたい五つの資質・能力である「能力・特性を理解する力」「自ら相談し、支援を求める力」「進路先を理解する力」「能



進路講演会の様子

力・特性に応じた進路を選択する力」「能力・特性を表現し、伝える力」と支援が必要な生徒の学習テーマを整理した（資料4）。

### ウ 進路先への移行に向けた取組

進路先へのスムーズな移行をサポートする取組として、個別の指導計画を作成したり、その内容について特別支援教育委員会で検討したりした。

## 【資料4 支援スケジュール】

1年生 支援スケジュール

取組 対象	①自己理解を深める取組		②主体的な進路選択を促す取組		全ての生徒（ユニバーサルな視点）				特別な支援を必要とする生徒			
	学年	月	段階	教育活動 取組内容（行事等）	主導 分掌	活用ツール等	資質・能力				個別に取り組む内容・テーマ	
							理解	相対	情報	選択		表現
1	4	4	①理解	学びの基礎診断テスト	進路		0				基礎学力の把握、学習や進路について考える	
			②選択	個人面談	学年	個人面談シート		0		0	2者間の関係づくり	
	5	5	①理解	進路探究	進路	学びの基礎診断テスト振り返り講演会	0		0	自己理解		
			②選択	第1回進路希望調査	進路	進路希望調査票	0		0	進路について考える		
	6	6	①理解	学部学科説明会	進路	学部学科説明会アンケート	0	0	0	学部・学科について理解を深める		
			②選択	模擬試験	進路		0		0	学力の把握		
	7・8	7・8	①理解	保護者会	学年			0				
			②選択	夏季補習	進路		0			進路実現に向けて学力をつける		
	9	9	①理解	オープンキャンパス	進路	オープンキャンパス報告書	0	0	0	進路先の適正を考える		
			②選択	課題・実力テスト	進路		0			学力の把握		
	10	10	①理解	個人面談	学年	個人面談シート		0	0	0	模範選択の確認	
			②選択	後期補習	進路		0			進路実現に向けて学力をつける		
	12	12	①理解	第2回進路希望調査	進路	進路希望調査票	0		0	進路について考える		
			②選択	模擬試験	進路		0		0	学力の把握		
	1	1	①理解	保護者会	学年			0				
			②選択	課題・実力テスト	進路		0			学力の把握		
	1	1	①理解	模擬試験	進路		0		0	学力の把握		
			②選択	模擬試験	進路		0		0	学力の把握		

2年生 支援スケジュール

取組 対象	①自己理解を深める取組		②主体的な進路選択を促す取組		全ての生徒（ユニバーサルな視点）				特別な支援を必要とする生徒			
	学年	月	段階	教育活動 取組内容（行事等）	主導 分掌	活用ツール等	資質・能力				個別に取り組む内容・テーマ	
							理解	相対	情報	選択		表現
2	4	4	①理解	第1回進路希望調査	進路	進路希望調査票	0		0		進路について考察	
			②選択	学びの基礎診断テスト	進路		0			0	基礎学力の把握、学習や進路について考える	
	5	5	①理解	個人面談	学年	個人面談シート		0	0	0	2者間の関係づくり	
			②選択	進路探究②	進路	学びの基礎診断テスト振り返り講演会	0		0	0	自己理解	
	6	6	①理解	前期補習	進路		0				進路実現に向けて学力をつける	
			②選択	出前授業	進路	出前授業アンケート	0	0	0	0	大学について理解を深める	
	7・8	7・8	①理解	模擬試験	進路		0		0	0	学力の把握	
			②選択	保護者会	学年				0			
	9	9	①理解	夏季補習	進路		0				進路実現に向けて学力をつける	
			②選択	オープンキャンパス	進路	オープンキャンパス報告書	0	0	0	0	進路先の適正を考える	
	10	10	①理解	課題・実力テスト	進路		0				学力の把握	
			②選択	個人面談	学年	個人面談シート		0		0	0	模範選択の確認
	11	11	①理解	後期補習	進路		0				進路実現に向けて学力をつける	
			②選択	第2回進路希望調査	進路	進路希望調査票	0		0	0	進路について考える	
	12	12	①理解	模擬試験	進路		0		0	0	学力の把握	
			②選択	進路講演会	進路		0		0	0	入試に向けて学習の仕方を考える	
	1	1	①理解	保護者会	学年				0			
			②選択	冬季補習	進路		0				進路実現に向けて学力をつける	
1	1	①理解	課題・実力テスト	進路		0				学力の把握		
		②選択	模擬試験	進路		0		0	0	学力の把握		

### (4) 個別の指導の実際

対象生徒Aは発達障害の診断を受けている。複数の指示を同時に処理することが困難であり、整理整頓や自己管理にも課題が認められる。保護者からは、生徒の特性を十分に考慮した上で、可能な範囲での支援提供の要望があった。そのため、個別の指導計画を作成し、個人面談及び「特別支援教育委員会」で以下の支援方法を検討した。

#### ア 学習上の支援

生徒Aは板書を書き写すなどの作業スピードが遅いという課題があった。対応策として、学年や教科担当と連携して空欄が既に埋められて完成されたプリントを渡し、家庭学習に生かす支援を行った。その結果、この支援により、学習面での大きな遅れや心配事は見られなくなった。

#### イ 生活上の支援

生徒Aはプリント類の整理ができないという課題があった。そこで、支援方法として、教育相談担当と連携して教科ごとのファイルを準備したり、箱にプリントを入れて整理したりする方法を提案した。プリントを仕分けすること自体が難しいという新たな課題も浮き彫りになったが、それでも、この支援と保護者の協力もあり、提出物の遅れが目立つことはなくなった。

#### ウ 支援のポイント

個人面談の充実によって、生徒の困りごとを把握し、具体的な支援方法を検討し実施することができた。また、教科担当、教育相談担当、保護者など、複数の関係者が連携して支援を行うことで、学習面・生活面の課題が改善された。このことにより、生徒が自己理解を進め、主体的な進路選択につなげることができたと考える。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

##### ア 教員の変容

個別の指導計画の活用によって、生徒一人一人の学習状況や性格、興味・関心など細かな部分まで注意深く見守ることができるようになった。その結果、個々の生徒に応じた支援やアドバイスがしやすくなり、学習意欲の向上や成績の伸びにもつながっている。また、教員からは、「個別の指導計画を作成したことにより、従来は意識が向かなかった点にも注目できるようになり、生徒の観察や把握をより慎重に行うことができた」「個別の指導計画の作成にあたり、自分も勉強が必要だと感じたため、eラーニングや読書で学習した」という意見が出ており、教員の意識が向上し、また学校全体の指導力向上にも寄与したと考えられる。

##### イ 生徒の変容

###### (ア) 自己理解の深化

対象生徒Bは、自分自身の目標を維持しつつ、担任の助言を受けて進路希望先の選択肢を広げようとする行動が見られた。自己理解を基盤に、進路選択の柔軟性が高まっており、自己理解が進み、主体的な進路選択が始まっていると考えられる。

###### (イ) 進路選択の変化

対象生徒Cは、オープンキャンパスに参加するにあたり、大学で合理的配慮が行われているかを確認し、自分が目指す職業に必要な資格が取得可能かを考慮しながら進路を選択できるようになった。また、別の生徒においては、進路選択において情報収集を主体的に行う姿が見られるようになった。

##### ウ 「特別支援教育委員会」の効果

生徒の支援は、「特別支援教育委員会」での情報共有や支援方法の検討、個別の指導計画の活用によって更に促進された。校内支援体制の充実が、生徒の主体的な進路選択を支える要因となっていると考えられる。

#### (2) 課題

進路先と連携した移行支援の更なる充実を図ることが課題である。卒業後の卒業生への聞き取りの実施や進学先との情報共有の体制整備を校内で検討して取り組んでいるが、課題も多い。進学先との定期的な情報共有、卒業後の聞き取り、校内の支援履歴の体系的な整理と引き継ぎの枠組みの整備を今後更に進める必要があると考える。さらに、進路先への移行支援に向けては、保護者と生徒本人の同意が必要となってくるため、なるべく早い段階で、進路先への移行支援についても確認することも有効であると考えられる。

特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究（支援スケジュール）

研究推進 3つの柱 (取組)	①理解	自己理解
	②選択	主体的な進路選択
	③移行	進路先への移行に向けた取組

高めたい 資質・能力	理解	能力・特性を理解する力
	相談	自ら相談し、支援を求める力
	情報	進路先を理解する力
	選択	能力・特性に応じた進路を選択する力
	表現	能力・特性を表現し、伝える力

取組		①自己理解を深める取組 ②主体的な進路選択につなげる取組						③進路先への移行に向けた取組			特別支援教育体制の構築					
対象		全ての生徒（ユニバーサルな視点）						特別な支援を必要とする生徒			校内連携					
学年	月	取組	教育活動 取組内容（行事等）	主導 分掌	活用ツール等	資質・能力					個別に取り組み内容・テーマ	移行支援に関わる情報	担当	活用ツール等	校内・保護者・進路先との連携	
						理解	相談	情報	選択	表現						
1年	3月	入学前 健康相談														
	4月	ライフデザインシート作成（担当：特別支援コーディネーター）														
		①理解	学びの基礎診断テスト	進路		○						基礎学力の把握、学習や進路について考える				特別支援教育委員会
		①理解	個人面談	学年	個人面談シート		○				○	2者間の関係づくり				
	第1回特別支援教育委員会 個別の指導計画作成（担当：担任）												個別の指導計画作成	担任	個別の指導計画	
	5月	①理解	類型説明会	教務		○				○	類型の理解					
		①理解	進路講演会	進路	学びの基礎診断テスト振り返り講演会	○				○	自己理解					
		②選択	国立大学説明会	進路					○	○	広い視野で進路について考える					
	6月	②選択	第1回進路希望調査	進路	進路希望調査票	○				○	進路について考える					
		②選択	学部学科説明会	進路					○	○	学部・学科について理解を深める					
	7月	①理解	模擬試験	進路		○				○	学力の把握					
		①理解	保護者会	総務					○							
	8月	②選択	インターンシップ事前指導	進路						○						
		②選択	夏季補習	進路		○					進路実現に向けて学力をつける					
	第2回特別支援教育委員会												個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会
	9月	②選択	インターンシップ	進路		○				○	職場体験を通して自己の適正を理解する					
		②選択	オープンキャンパス	進路	オープンキャンパス報告書	○				○	進路先の適正を考える					
		①理解	課題・実力テスト	進路		○					学力の把握					
	10月	②選択	インターンシップ事後指導	進路	体験感想文				○	○	振り返り					
		①理解	個人面談	学年	個人面談シート				○	○	○	類型選択の確認				
		②選択	後期補習	進路		○					進路実現に向けて学力をつける					
	12月	②選択	第2回進路希望調査	進路	進路希望調査票	○				○	進路について考える					
		①理解	模擬試験	進路		○				○	学力の把握					
①理解		保護者会	総務					○								
第3回特別支援教育委員会												個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会	
1月	①理解	課題・実力テスト	進路		○					学力の把握						
	①理解	模擬試験	進路		○				○	学力の把握						
2月																
3月	第5回特別支援教育委員会												個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会

特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究（支援スケジュール）

研究推進 3つの柱 (取組)	①理解	自己理解
	②選択	主体的な進路選択
	③移行	進路先への移行に向けた取組

高めたい 資質・能力	理解	能力・特性を理解する力
	相談	自ら相談し、支援を求める力
	情報	進路先を理解する力
	選択	能力・特性に応じた進路を選択する力
	表現	能力・特性を表現し、伝える力

取組		①自己理解を深める取組 ②主体的な進路選択につなげる取組					③進路先への移行に向けた取組			特別支援教育体制の構築						
対象		全ての生徒（ユニバーサルな視点）					特別な支援を必要とする生徒			校内連携						
学年	月	取組	教育活動 取組内容（行事等）	主導 分掌	活用ツール等	資質・能力					個別に取り組み内容・テーマ	移行支援に関わる情報	担当	活用ツール等	校内・保護者・進路先との連携	
						理解	相談	情報	選択	表現						
2年	4月	①理解	学びの基礎診断テスト	進路							基礎学力の把握、学習や進路について考える					
		①理解	個人面談	学年	個人面談シート						2者間の関係づくり					
		②選択	第1回看護・医療系希望者説明会	進路							進路希望先の理解					
	第1回特別支援教育委員会											個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会	
	5月	②選択	類型説明会	教務							類型的理解					
		①理解	進路講演会	学年	学びの基礎診断テスト振り返り講演会						自己理解					
		②選択	第1回進路希望調査	進路	進路希望調査票						進路について考察					
	6月	②選択	国公立大学説明会	進路							広い視野で進路について考える					
		②選択	第2回看護・医療系希望者説明会	進路							看護・医療系について理解する					
		②選択	出前授業	進路							大学について理解を深める					
	7・8月	①理解	模擬試験	進路							学力の把握					
		①理解	保護者会	総務												
		②選択	インターンシップ事前指導	進路												
	第2回特別支援教育委員会											個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会	
	9月	②選択	インターンシップ	進路							職場体験を通して自己の適正を理解する					
		②選択	オープンキャンパス	進路	オープンキャンパス報告書						進路先の適正を考える					
		①理解	課題・実力テスト	進路							学力の把握					
	10月	②選択	インターンシップ事後指導	進路	体験感想文						振り返り					
		①理解	個人面談	学年	個人面談シート						類型選択の確認					
		②選択	後期補習	進路							進路実現に向けて学力をつける					
	11月	②選択	第2回進路希望調査	進路	進路希望調査票						進路について考える					
		①理解	模擬試験	進路							学力の把握					
		①理解	進路講演会	進路							入試に向けて学習の仕方を考える					
	12月	①理解	保護者会	総務												
		②選択	冬季補習	進路							進路実現に向けて学力をつける					
		第3回特別支援教育委員会											個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会
	1月	①理解	課題・実力テスト	進路							学力の把握					
		①理解	模擬試験	進路							学力の把握					
2月																
3月	第5回特別支援教育委員会											個別の指導計画情報追加	担任	個別の指導計画	特別支援教育委員会	

